

愛荘町の指定文化財②

紙本著色
しほんちゃくしよく

愛智河架橋絵巻

(町立歴史文化博物館)

る事故も起きていました。

このことに憂慮した愛知川宿の成宮弥次右衛門は、塚本助一、松居久左衛門など近隣の豪商に協力を頼み、彦根藩に嘆願書を提出して架橋を許可されたのです

年を経て、天保二年(一八三一)に漸く着工に踏み切り、同年の九月二十七日に渡り初めが行われました。

この架橋絵巻は成宮健二家に所蔵されていたもので、作者は京絵師・横山崋山の弟子として天保期に活躍した小澤華嶽です。

三二、四cm、長さ七二、九cmで、絵巻は三部から構成され、巻頭には架橋の材料を切り出し加工する場面、続けて架橋の工程を細かに描き、最後は完成した全体の様子を俯瞰しています。

完成した橋は通称「無賃橋」と呼ばれますが、当時は「太平橋」と名付けられたようです。

大友暢(歴史文化博物館)

編集後記

コスモスが秋風にゆれる季節となり、9月定例会が終わりました。

二町が合併して愛荘町が誕生し愛知川庁舎を本庁舎、秦荘庁舎を分庁舎とするなど、公共施設の有効活用を図ることとされ、約14年間そのまま現在に至っています。

2014年、国より過去に建設された公共施設等がこれから大量に更新時期を迎え、人口減少等により今後の施設などの利用需要が変化し、合併後の施設全体の最適化を図る必要から、「公共施設等総合管理計画」を策定。

このことを踏まえ「庁舎等のあり方検討委員会」を設け、住民の皆さんと情報共有しながら、行政機能の配置の最適化について、具体的方針を取りまとめ、いつまでも住み続けたい、幸せを実感できるまちづくりに向けて、方針に基づき速やかに実施することになりました。

【発行責任者】

議長 河村 善一

【広報常任委員会】

委員長 森野 隆

副委員長 村西 作雄

委員 澤田 源宏

委員 村田 定

委員 伊谷 正昭

委員 瀧 すみ江



平成二十七年一月に町文化財に指定されたこの絵巻物は、中山道筋の愛知川に初めて常設の橋(無賃橋)が渡されたことを記念して描かれたものです。

近世まで、街道を横切る大河は、軍事上の理由から橋を渡すことが出来ず、愛知川・犬上川はともに橋が渡されて

いませんでした。

しかし、中山道の旅客が増える江戸時代中頃になると、多くの人々が愛知川を渡るようになります。とはいえ水量が多いと河止めになり、通常でも川に設けられた渡し場から、渡し賃金を払って人足渡し

しされていたのです。時には強引に渡って、急流に流され